

* 研究授業からの学び *

2021.12.13
No.5
文責 新玉

令和3年 11月11日 (木)

西土佐小学校 第1学年 生活科

柴 園美 教諭

単元名 「たのしいあきいっぱい」(全21時間)

内容(5)(6) 季節の変化と生活・自然や物を使った遊び

<単元でつきたい力>

- 自然の様子や四季の変化に気付く。【知識及び技能】
- 身近な自然を使って遊びや遊びに使うものを工夫してつくる。【思考力、判断力、表現力等】
- 身近な自然を取り入れ生活を楽しむ。【学びに向かう力、人間性等】

本時の目標

秋の自然と関わったことを振り返り、春・夏・秋の遊びを比べ、季節によって生活の様子が変わることに気付く。

本時の評価規準

季節によって楽しめる遊びが変わるなど、季節によって生活の様子が変わることに気付いている。【知】

本時の授業風景

秋になって、寒くなってきたね。葉っぱの色が変わってきたよ。



どんぐりやまつぼっくりを使って、コマやけん玉を作ったよ。みんなで対決したら楽しそうだな。

本時の板書(10/20)



研究協議より(抜粋)

授業者より

- 季節の違いに気付いたり、秋ならではのものでおもちゃが作れる楽しさに気付いたりすることをねらいとした。春や夏と比べることで、子どもたちは夏と秋の遊びの違いに気付くことができた。
- 国語科の「発見したよ」の単元と合わせ、何をどのように作ったのか、どのように遊ぶのかを考えて発表し、他教科と関連させて活動できた。
- 友達の発言と自分を重ねて考えている子どもがいた。自分の考えが言えていた。
- 感想で、「～すごいと思います」「～がいいと思います」という子どもが多かった。感想の視点を示すなど、発言の内容を広げる工夫があったらよかった。

参観者より

- これまでの学習を振り返る導入場面で ICT を活用し、自由に発言させることで様子を具体的に思い出させることができた。
- 発表する子どもは、自分の作品に名前をつけたり、作品を何かに例えたりして工夫して紹介でき、聞く方の子どもは興味をもって聞くことができていた。
- 子どもたちは、やりたいことを具体的に話すことができていた。
- 春、夏、秋のこれまでの周りの様子を ICT を活用して見せたが、板書に掲示するなど視覚化しておくことで、季節の変化に気づかせることができたのではないかと。
- 発表だけでなく、おすすめの遊びで楽しく遊んで終わる内容でもよかった。
- 複数の子どもで発表するのではなく、一人一人が自分の言葉で伝えてもよかった。

指導主事より

- ・導入に ICT を取り入れ、これまでの活動を思い出させることで気持ちを高めてスタートでき、効果的だった。
- ・他教科と関連させ、学びが活かされた発表となっていた。
- ・秋について「寒い」という感想があり、校外活動での自然体験が活かされていた。
- ・学習の足跡を教室の後方に残したり、個人の記録を残すなど、今後の学習に活かしたり児童が自分の変化に気付かせたりする工夫がよかった。
- ・最初に「おすすめポイント」等を伝えて確認しておくことで、子どもたちも方向がつかめる。

授業者のリフレクションより

導入部分では ICT を活用して写真や動画を見せることは、これまでの学習を振り返りやすくなり大変有効であるためこれからも活用したい。
発表の形は、国語科とも関連させることで、練習や実践ができるので、カリキュラムマネジメントをしっかりと確認して取り組んでいきたい。
学習の成果物を掲示したりファイルしたりしてしっかりと残していくことは、のちの学習の参考になるので大切にしたい。
学習のめあて、発表の視点などをより明確にして活動をさせるようにしたい。

☆これから取り組んでいきたいこと

- *活動のめあてや視点を明確にした授業づくり。
- *他教科との関連を図るため、カリキュラムマネジメント表を確認し、学習計画を立てる。
- *導入の工夫、振り返りの充実を図る。
- *児童が楽しいと感じ、いきいきと活動できる内容を仕組む。